(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-143870
(P2007-143870A)
(43)公開日　平成19年6月14日(2007.6.14)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A61F 13/49	(2006.01)	A41B 13/02	H	3B200
A61F 13/56	(2006.01)			

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 18 頁）

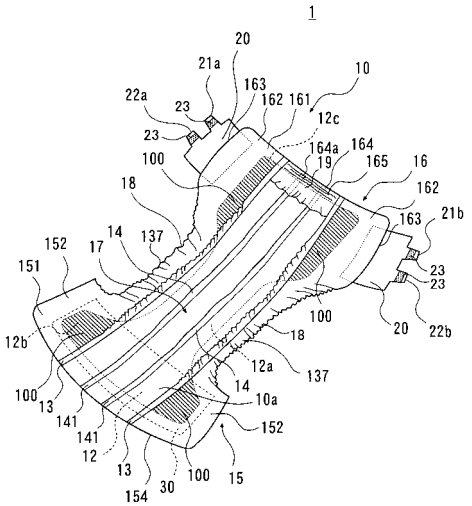
(21)出願番号　特願2005-342532 (P2005-342532)
(22)出願日　平成17年11月28日 (2005.11.28)

(71)出願人　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(74)代理人　100093045
弁理士　荒船　良男
(72)発明者　吉田　英聡
栃木県さくら市大字鷲宿字菅ノ沢４７７６－４　エリエールペーパーテック株式会社内
(72)発明者　井戸　康夫
栃木県さくら市大字鷲宿字菅ノ沢４７７６－４　エリエールペーパーテック株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】吸収性物品

(57)【要約】
【課題】より装着しやすい吸収性物品を実現する。
【解決手段】紙おむつ１におけるサイドフラップ２０に備えられ、被着部３０に係止させるためのファスニングテープ２３の色を、白いサイドフラップ２０と異なる色である青色とすることにより、サイドフラップ２０におけるファスニングテープ２０の位置を視認しやすくすることによって、ファスニングテープ２３の位置を確認しつつ、そのファスニングテープ２３を被着部３０の所望する位置に係止することを可能にする構成にした。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表面シートと前記裏面シートとの間に腹側部から背側部にかけて介装される吸収体と、を備え、前記背側部の両側方に延出した一対の止着部と、前記腹側部の前記裏面シートに設けられた被着部と、を有する吸収性物品において、
前記止着部には、前記被着部に係止させるためのファスニング部材が、前記止着部と異なる色に着色されて備えられていることを特徴とする吸収性物品。
【請求項２】
透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表面シートと前記裏面シートとの間に腹側部から背側部にかけて介装される吸収体と、を備え、前記背側部の両側方に延出した一対の止着部と、前記腹側部の前記裏面シートに設けられた被着部と、を有する吸収性物品において、
前記止着部には、前記被着部に係止させるための透明なファスニング部材が、前記止着部と異なる色に着色された接着剤によって接着されて備えられていることを特徴とする吸収性物品。
【請求項３】
前記ファスニング部材が備えられている位置に対応する前記止着部には、前記ファスニング部材に向かって窪むエンボスが施されていることを特徴とする請求項１又は２に記載の吸収性物品。
【請求項４】
前記ファスニング部材には、前記止着部に向かって窪むエンボスが施されていることを特徴とする請求項１～３のいずれか一項に記載の吸収性物品。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、使い捨て紙おむつ等の吸収性物品に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、使い捨て紙おむつ等に代表される吸収性物品は、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表面シートと前記裏面シートとの間に腹側部から背側部にかけて介装される吸収体とを有する。
そして、使い捨て紙おむつを装着する場合には、例えば、使い捨て紙おむつを人体の股にあて、その使い捨て紙おむつにおける背側部に設けられたテープファスナを、おむつの腹側部に設けられたテープファスナ受止シートに止着すればよい。
【０００３】
その使い捨て紙おむつの腹側部にテープファスナ受止シートを接着する際に、着色された接着剤を縞模様状に塗布することによって、テープファスナの位置決め指標を形成した使い捨て紙おむつが知られている（例えば、特許文献１参照。）。
【特許文献１】特許第３１７０４３５号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上記特許文献１の場合、テープファスナが紙おむつ本体と同系色であると視認しにくく、そのテープファスナ部分を探さなければならないことなどがあり、装着に手間取ってしまうことがあるという問題があった。
【０００５】
本発明の目的は、より装着しやすい吸収性物品を提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】

以上の課題を解決するため、請求項１に記載の発明は、
透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表面シートと前記裏面シートとの間に腹側部から背側部にかけて介装される吸収体と、を備え、前記背側部の両側方に延出した一対の止着部と、前記腹側部の前記裏面シートに設けられた被着部と、を有する吸収性物品において、
前記止着部には、前記被着部に係止させるためのファスニング部材が、前記止着部と異なる色に着色されて備えられていることを特徴とする。
【０００７】
請求項２に記載の発明は、
透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表面シートと前記裏面シートとの間に腹側部から背側部にかけて介装される吸収体と、を備え、前記背側部の両側方に延出した一対の止着部と、前記腹側部の前記裏面シートに設けられた被着部と、を有する吸収性物品において、
前記止着部には、前記被着部に係止させるための透明なファスニング部材が、前記止着部と異なる色に着色された接着剤によって接着されて備えられていることを特徴とする。
【０００８】
請求項３に記載の発明は、請求項１又は２に記載の吸収性物品において、
前記ファスニング部材が備えられている位置に対応する前記止着部には、前記ファスニング部材に向かって窪むエンボスが施されていることを特徴とする。
【０００９】
請求項４に記載の発明は、請求項１～３のいずれか一項に記載の吸収性物品において、
前記ファスニング部材には、前記止着部に向かって窪むエンボスが施されていることを特徴とする。
【発明の効果】
【００１０】
請求項１に記載の発明によれば、吸収性物品における止着部には、被着部に係止させるためのファスニング部材が、止着部と異なる色に着色されて備えられているので、止着部に備えられるファスニング部材を視認しやすくなっている。そして、止着部におけるファスニング部材の位置がわかり易く、見つけやすい。
従って、吸収性物品を装着する際にファスニング部材の位置を確認しつつ、そのファスニング部材を被着部の所望する位置に係止するようにして、吸収性物品を着用することができる。つまり、ファスニング部材の位置がわかり易いことによって、被着部にファスニング部材によって試着部を係止させる位置を調整しやすく、吸収性物品を装着しやすくなる。
よって、吸収性物品におけるファスニング部材の色を、ファスニング部材が備えられる止着部と異なる色とすることによって、より装着しやすい吸収性物品とすることができる。
【００１１】
請求項２に記載の発明によれば、吸収性物品における止着部には、被着部に係止させるための透明なファスニング部材が、止着部と異なる色に着色された接着剤によって接着されて備えられているので、その接着剤の色に基づき止着部に備えられるファスニング部材の位置を視認しやすくなっている。そして、止着部におけるファスニング部材の位置がわかり易く、見つけやすい。
従って、吸収性物品を装着する際にファスニング部材の位置を確認しつつ、そのファスニング部材を被着部の所望する位置に係止するようにして、吸収性物品を着用することができる。つまり、ファスニング部材の位置がわかり易いことによって、被着部にファスニング部材によって試着部を係止させる位置を調整しやすく、吸収性物品を装着しやすくなる。
よって、透明なファスニング部材を、そのファスニング部材が備えられる止着部と異なる色を有する接着剤によって止着部に接着することによって、より装着しやすい吸収性物

品とすることができる。

【００１２】

請求項３に記載の発明によれば、請求項１又は２に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、ファスニング部材が備えられている位置に対応する止着部には、ファスニング部材に向かって窪むエンボスが施されているので、そのエンボス加工が施された止着部が薄く圧縮されている。

そして、薄く圧縮された止着部部分は、光透過性が向上することとなって、ファスニング部材の色や、接着剤の色が透けて視認可能となる。

よって、止着部側からもファスニング部材や接着剤の色が視認可能となることにより、ファスニング部材の位置がよりわかりやすくなるので、より装着しやすい吸収性物品とすることができる。

【００１３】

請求項４に記載の発明によれば、請求項１～３のいずれか一項に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、ファスニング部材には、前記止着部に向かって窪むエンボスが施されているので、ファスニング部材や接着剤を止着部側に密着させることができる。

そして、止着部に密着させられたファスニング部材や接着剤の色が、その止着部を透過するように視認可能となる。

よって、止着部側からもファスニング部材や接着剤の色が視認可能となることにより、ファスニング部材の位置がよりわかりやすくなるので、より装着しやすい吸収性物品とすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１４】

以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しながら詳細に説明する。

本実施の形態では、吸収性物品として、特に、成人用の使い捨て紙おむつを一例として、以下で説明する。

【００１５】

図１は、本実施の形態における使い捨て紙おむつを展開した斜視図である。また、図２は、使い捨て紙おむつの装着時の状態に組立てた斜視図であり、図３は、平面展開図である。

図１～図３に示すように、吸収性物品である使い捨て紙おむつ（以下、紙おむつという。）１は、紙おむつ本体１０と、この紙おむつ本体１０を人体に装着するための止着部としてのサイドフラップ２０、２０と、サイドフラップ２０を係止させるための被着部３０とを備えている。

【００１６】

紙おむつ本体１０は、人体との接触面側に設けられる透液性の不織布等からなる表面シート１０ａと、装着時に外部側に設けられる不透液性の裏面シート１０ｂと、表面シート１０ａと裏面シート１０ｂとの間に介装される吸収体１２と、表面シート１０ａ側の吸収体１２の両側部に、紙おむつ本体１０の長手方向に沿って備えられるギャザーシート１３、１３と、このギャザーシート１３、１３よりも紙おむつ本体１０の幅方向の内側の吸収体１２上に、紙おむつ本体１０の長手方向に沿うように備えられる突出部１４、１４と、により主に構成される。

ここで、内側とは、紙おむつ１０の幅方向の中央側をいい、外側とは、紙おむつ１０の幅方向の中央から離れる側をいう。

【００１７】

紙おむつ本体１０は、人体の股部を腹側から背側にかけて覆うように、一方の端部に腹側部１５が形成され、他方の端部に背側部１６が形成されている。また、腹側部１５と背側部１６との間が股下部１７となっている。股下部１７の両縁部は、内側に凹むように形成され、装着された際に着用者の脚の周りを囲む脚開口部１８、１８となっている。

【００１８】

そして、紙おむつ本体１０の腹側部１５の端部１５１と、背側部１６の端部１６１とは、紙おむつ１が装着された際に、胴周りを形成するようになっている。

特に、胴周りを形成する部分として、腹側部１５において股下部１７よりも両外側に延出した腹側延出部１５２、１５２と、背側部１６において股下部１７よりも両外側に延出した背側延出部１６２、１６２と、が形成されている。

また、背側部１６の長手方向の縁部１６４の中央部には、糸ゴム等の弾性部材１６４ａが幅方向に沿って設けられ、この弾性部材１６４ａにより平面ギャザー１６５が形成され、着用者の胴周りにフィットするように伸縮自在な構成となっている。

【００１９】

また、背側部１６の背側延出部１６２、１６２の側縁部１６３、１６３には、それぞれ外側に突出したサイドフラップ２０、２０が設けられている。

また、腹側部１５の端部１５１における裏面シート１０ｂには、被着部３０が設けられている。

【００２０】

サイドフラップ２０、２０は、例えば、不織布等で形成されており、背側部１６の延出部１６２、１６２の左右側方に延出するように備えられている。そして、左右それぞれのサイドフラップ２０、２０の自由端部側には、凸状に突出する第１ファスナ２１ａ、２１ｂと、第２ファスナ２２ａ、２２ｂとが設けられている。第１ファスナ２１ａ、２１ｂ、第２ファスナ２２ａ、２２ｂには、それぞれ面ファスナのオス材の係止要素であるファスニング部材としてのファスニングテープ２３が備えられている。そして、この４つのファスニングテープ２３、２３、２３、２３が、腹側部１５の裏面シート１０ｂ上に備えられているメス材の係止要素である被着部３０に係止するようになっていて、背側端部側の第１ファスナ２１ａ、２１ｂは胴周りを締め付け、股下部１７側の第２ファスナ２２ａ、２２ｂは脚周りを締め付け可能な構造となっている。

【００２１】

ファスニングテープ２３は、白色のサイドフラップ２０と異なる色、例えば、青色に着色されており、サイドフラップ２０におけるファスニングテープ２３の位置を視認しやすくなっている。

このファスニングテープ２３は、図４に示すように、サイドフラップ２０の自由端部側におけるギャザーシート１３側（表面シート１０ａ側）の面に、ホットメルトなどの接着剤２４によって接着されて、固定されている。

特に、ファスニングテープ２３には、サイドフラップ２０に向かってエンボス加工が施され凹部２３ａが形成されており、また、ファスニングテープ２３が備えられている位置に対応するサイドフラップ２０には、ファスニングテープ２３に向かってエンボス加工が施され凹部２０ａが形成されている。

このように、サイドフラップ２０とファスニングテープ２３とにエンボスを施すようにして密着させると、ファスニングテープ２３の色が、サイドフラップ２０側から透けて視認しやすくなる。特に、サイドフラップ２０の不織布を薄く圧縮すると、その圧縮された凹部２０ａは半透明化するので、ファスニングテープ２３の色が透けやすくなる。

つまり、図２に示す状態のように、サイドフラップ２０のファスニングテープ２３を被着部３０に係止させる際に、そのファスニングテープ２３の位置を視認して確認しつつ、被着部３０の任意の位置に係止させることができる。

【００２２】

なお、ファスニングテープ２３の表面には、図５（ａ），（ｂ）に示すように、平面視略六角形状を呈する平らな先端部５ａを有する複数の微細な突起５が形成されている。

この突起５の先端部５ａと基端部５ｂとの間には、くびれ部５ｃが形成されており、くびれ部５ｃから先端部５ａに向かう側面部５ｄにはテーパ状の傾斜面が形成されている。

そして、図６に示す、複数の糸が格子状に織られたり編まれたりしてなる繊維面を有する、例えば、パイル織編物によって構成される被着部３０に対して、図７に示すように、ファスニングテープ２３の突起５の先端部５ａが接触すると、被着部３０の表面（パイル

織編物）において毛羽立ったループ状の繊維が、突起５の先端部５ａからくびれ部５ｃにかけて絡まることによって、被着部３０にファスニングテープ２３が係止されるようになっている。

特に、突起５の先端部５ａは平面状に形成された平坦面となっているので、被着部３０表面の繊維束へ浅く入り込むことによって、突起５は被着部３０に良好に係止される。これに対し、先端が凸状の略傘形状を呈する従来の突起を有するファスニングテープの場合、その突起が被着部３０表面の繊維束へより深く入り込まなければ係止されないので、このファスニングテープ２３の突起５の形状は優れているといえる。

また、突起５の先端部５ａは平面視略六角形状に形成されているので、その六角形の角に被着部３０の毛羽立った繊維が引っ掛かりやすく、突起５は被着部３０に良好に係止される。これに対し、先端部が平面視略楕円形状を呈する従来の突起を有するファスニングテープの場合、突起の楕円の周面に沿って被着部３０の毛羽立った繊維が滑りやすく引っ掛かりにくいので、このファスニングテープ２３の突起５の形状は優れているといえる。

なお、突起５の先端部５ａの形状は六角形状であることに限らず、他の多角形状であってもよい。

【００２３】

また、ファスニングテープ２３を被着部３０から取り外す際には、突起５に絡んだ被着部３０の繊維は、側面部５ｄの傾斜に沿って抜けるように外れるので、被着部３０表面の繊維が切断されてしまうなどの損傷は起こり難く、ファスニングテープ２３と被着部３０との着脱を繰り返し行うことが可能になっている。

【００２４】

吸収体１２は、紙おむつ１の使用時に、体液としての尿等の水様成分を吸収するものであり、綿やパルプ等の吸収性素材や、繊維或いはフィルム等のシート状基材と、高吸水性樹脂とを組み合わせて形成される。吸収体１２は、腹側部１５から背側部１６に亘る長さに形成されている。また、吸収体１２の幅方向の長さは、股下部１７の形状に合わせて中央部１２ａが狭く、長手方向の腹側端部１２ｂ、背側端部１２ｃは、腹側部１５の腹側延出部１５２、背側部１６の背側延出部１６２の形状に合わせて、中央部１２ａよりも幅が広く形成されている。

【００２５】

ギャザーシート１３、１３は、表面シート１０ａ側であって吸収体１２の中央部１２ａを挟む幅方向の両側部に、腹側部１５の長手方向の縁部１５４から背側部１６の長手方向の縁部１６４に亘ってそれぞれ備えられている。

このギャザーシート１３、１３の幅方向外側の部分は、図８に示すように、裏面シート１０ｂの表面シート１０ａ側の面に固着されており、吸収体１２の側方で表面シート１０ａ側に周り込むようにして表面シート１０ａの上面に固着されている。そして、このギャザーシート１３の幅方向内側の部分は、表面シート１０ａに固定されておらず自由部１３１となっている。

ここで、ギャザーシート１３が裏面シート１０ｂおよび表面シート１０ａと固定される部分を固定部１３２といい、固定部１３２と自由部１３１との境目を基端部１３３とする。

【００２６】

ギャザーシート１３は、図８に示すように、股下部１７における基端部１３３において幅方向外側に折り返される第１折り返し部１３ａと、基端部１３３と自由部１３１の先端の自由端部１３４との間の中間位置よりも自由端部１３４側において、幅方向内側に折り返される第２折り返し部１３ｂとが形成されている。

従って、この第１折り返し部１３ａと第２折り返し部１３ｂとで、断面略く字状及び逆く字状に立ち上がった立体ギャザーが形成される。尚、第１折り返し部１３ａは、股下部１７においては、基端部１３３にて形成されるのが望ましいが、これに限られず、第２折り返し部１３ｂは、基端部１３３と自由端部１３４の間の中間位置よりも自由端部１３４寄りであれば、何処であってもよい。

【００２７】
ギャザーシート１３の自由部１３１には、ギャザーシート１３の長手方向に沿って、複数の糸ゴム（弾性部材）１３ｃが略平行に備えられている。本実施の形態では、図８に示すように、第２折り返し部１３ｂに一本と、自由端部１３４に一本と、第２折り返し部１３ｂと自由端部１３４の間の自由端部１３４寄りに一本、計三本ずつ糸ゴム１３ｃが設けられている。そして、この糸ゴム１３ｃにより立体ギャザーシート１３は、着用者の体型に合わせて伸縮自在に変形し、着用者にフィットしやすい構造となっている。
また、第２折り返し部１３ｂに糸ゴム１３ｃが設けられることにより、第２折り返し部１３ｂと自由端部１３４との間に、平らに近い面が吸収体１２側に傾倒して形成されるので、体液がギャザーシート１３を越えて漏れ出すのを阻止する効果を高めることができる。
【００２８】
また、ギャザーシート１３の長手方向の先端部（腹側先端部１３５、背側先端部１３６）においては、自由部１３１の外側に折り返された第１折り返し部１３ａと、内側に折り返された第２折り返し部１３ｂとが、例えば、ホットメルト等のヒートシールにより固着されている。
【００２９】
また、ギャザーシート１３の基端部１３３は、図１、図９に示すように、吸収体１２の腹側端部１２ｂ、背側端部１２ｃ上において、幅方向外側に向かって湾曲した凹部形状となっており、ギャザーシート１３の自由部１３１の幅方向の長さは、股下部１７の幅方向の長さよりも大きくなっている。これにより、図１、図３に示すように、ギャザーシート１３と表面シート１０ａとの間にポケット部１００、１００、１００、１００が、腹側部１５、背側部１６とにそれぞれ２つずつ、計４つ形成されている。従って、例えば、紙おむつ１の着用時に、不液透過性の立体ギャザーシート１３で遮断された体液が、不液透過性の立体ギャザーシート１３の長手方向に沿って移動すると、移動した体液は、腹側部１５或いは背側部１６のポケット部１００に到達して一旦貯留された後、徐々にポケット部１００の下方の吸収体１２に吸収されることとなって、横漏れ防止の効果を更に向上させることができる。また、ポケット部１００は、腹側延出部１５２及び背側延出部１６２の面積に対して、１０～８０％の大きさに形成されている。ここで、上記範囲に形成されている理由は、１０％より小さい場合には、ポケット部１００における体液吸収の効果が小さくなるからであり、８０％より大きい場合には、腹側延出部１５２及び背側延出部１６２の横或いは後方から漏れてしまう可能性があるからである。
【００３０】
また、固定部１３２において、ギャザーシート１３、１３と裏面シート１０ｂとの間には、脚開口部１８、１８の両縁部から腹側部１５の腹側延出部１５２、１５２、及び背側部１６の背側延出部１６２、１６２にかけて、脚開口部１８、１８の両側縁部の湾曲形状に合わせて糸ゴム等の弾性部材１３ｄがそれぞれ設けられ、この弾性部材１３ｄにより平面ギャザー１３７、１３７が形成されている。
これにより、着用者の脚周りに伸縮自在にフィットし、横漏れを防止するようになっている。この平面ギャザー１３７、１３７の長さは、例えば、３００～６００ｍｍとなっている。尚、本実施の形態では、図３、図８に示すように、弾性部材１３ｄとしての糸ゴムが、左右それぞれ３本ずつ備えられている。
【００３１】
また、図１、図３、図９に示すように、背側部１６において、不液透過性の不織布等からなるバックギャザーシート１９の幅方向の端部１９ａ、１９ｂが左右のギャザーシート１３、１３の間を掛け渡すように固着されている。そして、このバックギャザーシート１９の長手方向背側端部１９ｃが、裏面シート１０ｂに固着され、縁部１６４において平面ギャザー１６５を形成している。
また、バックギャザーシート１９の長手方向腹側端部１９ｄは、固定されておらず、表面シート１０ａ上を一部覆う様に延出しており、その先端部分に糸ゴムが幅方向に沿って

設けられ、伸縮可能に形成されている。そして、このバックギャザーシート１９と、表面シート１０ａとの間の隙間に、後ポケット部２００が形成されることとなって、後漏れを防止する機能を果たしている。

【００３２】

突出部１４、１４は、吸収体１２上面に、ギャザーシート１３、１３よりも幅方向内側で長手方向に沿って設けられている。この突出部１４、１４には、紙おむつ本体１０の表面シート１０ａ上に配置され、図１０に示すように、体液を吸収するインナーパッドＰの側部を固定させることができる。尚、図１０は、紙おむつ１の表面シート１０ａ上にインナーパッドＰをセットしたことを仮定した断面図である。

この突出部１４、１４は、表面シート１０ａを長手方向に沿って二つ折りにした部分を固着させることにより表面シート１０ａの一部を突出させて形成される。

この突出部１４、１４の長手方向端部１４１、１４２は、突出部１４、１４が内側に倒れるように表面シート１０ａ上に固着されている。

また、突出部１４の基端部１４４から先端部１４５までの突出した部分は、５～５０ｍｍの長さであって、インナーパッドＰを固定した際、突出部１４、１４が過度に覆い被さって体液の吸収性を妨げることがないようになっている。また、突出部１４の基端部１４４から先端部１４５までの突出部分の長さは、５～５０ｍｍに形成されているが、更に、ギャザーシート１３の基端部１３３と自由端部１３４の間の長さよりも小さく形成されており、ギャザーシート１３による横漏れ防止機能を阻止しないようになっている。

また、左右の突出部１４、１４の幅方向の間隔は、１００～３００ｍｍであるように形成されている。一般的にインナーパッドＰと呼ばれる吸収性物品の幅方向の長さが、１００～３００ｍｍであるため、突出部１４、１４の幅方向の間隔も、インナーパッドＰの幅方向の長さと略同じ長さに形成されている。また、突出部１４、１４の幅方向の間隔は、広く用いられているインナーパッドＰとの関係により、より好ましくは１６０～２００ｍｍに形成されているものとする。

【００３３】

また、この突出部１４、１４の先端部分には糸ゴム１４ａが設けられている。

この糸ゴム１４ａの弾性率は、２５０％以下であり、弾性力は２０ｇｆ以下であるように突出部１４に備えられている。従って、突出部１４、１４の間にインナーパッドＰを装着した場合に、上面からインナーパッドＰを固定させることができる。ここで、糸ゴム１４ａの弾性率は２５０％以下で、弾性力が２０ｇｆ以下であるのは、それより大きい場合には、糸ゴム１４ａの弾性力によって吸収体１２が収縮してしまうこととなって、装着した場合に吸収体１２の一部が重なるなどして吸収を妨げしまうからである。

【００３４】

尚、インナーパッドＰに面ファスナの一方の係止部材を設け、突出部１４の内面１４３のインナーパッドＰとの接触部分に数カ所、面ファスナの他方の係止部材を設け、インナーパッドＰのずれを更に防止する構成であってもよい。また、突出部１４は、表面シート１０ａの一部から形成されている構成で説明したが、突出部１４は表面シート１０ａと異なる他の部材から形成されていてもよい。

【００３５】

このように、本実施の形態による紙おむつ１によれば、吸収体１２によって一度に吸収されなかった体液が、ギャザーシート１３によって横漏れするのを阻止されるのに加え、ギャザーシート１３に沿って長手方向に移動することにより、ポケット部１００に到達して一旦貯留された後、徐々にポケット部１００の下方の吸収体１２に吸収されることとなって、横漏れ防止の効果が極めて高い。

【００３６】

特に、紙おむつ１におけるファスニングテープ２３の色を、白色のサイドフラップ２０と異なる青色とすることによって、サイドフラップ２０におけるファスニングテープ２３の位置を視認しやすくなっているので、紙おむつ１を着用する際にファスニングテープ２３の位置を確認しつつ、そのファスニングテープ２３が備えられるサイドフラップ２０を

被着部３０の所望する位置に係止することができる。つまり、ファスニングテープ２３の位置がわかり易いことによって、紙おむつ１を装着しやすくなる。

更に、サイドフラップ２０やファスニングテープ２３にエンボス加工を施すことによって、サイドフラップ２０を透かすようにしてファスニングテープ２３を視認することが可能になっているので、紙おむつ１をより装着しやすくなる。

【００３７】

なお、本発明は上記実施形態に限られるものではない。

【００３８】

例えば、図１１に示すように、紙おむつ１ａの着用時に人体の腰回り側に位置する第１サイドフラップ２５ａ、２５ｂと、人体の脚回り側に位置する第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂを備える紙おむつ１ａであってもよい。

そして、第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂを脚回り側から腰回り側へ引き上げるようにして、ファスニングテープ２３を被着部３０に係止するとともに、第１サイドフラップ２５ａ、２５ｂをその第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂに重ねるように止着することによって、紙おむつ１ａをより好適に人体にフィットさせて装着することができる。

なお、第１サイドフラップ２５ａと第２サイドフラップ２６ａ、及び、第１サイドフラップ２５ｂと第２サイドフラップ２６ｂ、とは、元々それぞれ上下一体のサイドフラップである。そして、第１サイドフラップ２５ａと第２サイドフラップ２６ａの間と、第１サイドフラップ２５ｂと第２サイドフラップ２６ｂの間に、それぞれミシン目が形成されているので、そのミシン目に沿ってサイドフラップを切り裂くことによって、上下別体の第１サイドフラップと第２サイドフラップとに分割することが可能になっている。

【００３９】

また、光透過性を有する透明なファスニングテープ２３を、任意の色に着色された接着剤を用いてサイドフラップ２０に接着することによって、その接着剤の色に基づき、ファスニングテープ２３の位置を視認可能とするようにしてもよい。

この場合、接着剤の色を選択することによって、ファスニングテープ２３部分の色を所望する色に変えることができるので、様々な色のファスニングテープ２３を準備することに比べて、ファスニングテープ２３部分の色のバリエーションを容易に増やすことができる。

【００４０】

また、図１２、図１３に示す、紙おむつ１ｂのように、サイドフラップ２０に、サイドフラップ２０の延出方向（紙おむつ１ｂの幅方向）と交差する方向に沿う複数条の筋部であるスリット２・・・を形成してもよい。なお、スリット２・・・は、サイドフラップ２０に切り込みが形成されてなる細い隙間（間隙、細隙）である。

スリット２・・・は、図１４（ａ）に示すように、サイドフラップ２０の延出方向と交差する方向に沿って、所定の間隔をあけてスリット２がその長手方向に連なるように複数配置される列を成すとともに、そのスリット２・・・の列が複数列、サイドフラップ２０の延出方向に配列されるように形成されている。

また、サイドフラップ２０の延出方向に配列される複数のスリット列は、スリット２と、スリット２間の非開口部とが、交互に繰り返されるように、複数のスリット列が配列されている。

なお、スリット２のサイドフラップ２０の延出方向と交差する方向に沿う開口部の長さＬは１ｍｍ～３０ｍｍ、スリット列方向のスリット間の長さＡは０．５ｍｍ～３０ｍｍ、スリット列の配列間の長さＢ（ピッチ長Ｂ）は０．５ｍｍ～３０ｍｍであることが好ましい。

【００４１】

そして、サイドフラップ２０に、そのサイドフラップ２０の延出方向（紙おむつ１ｂの幅方向）に引き広げられる作用力が付与されると、図１４（ｂ）に示すように、各スリット２の開口が開くことによって、サイドフラップ２０がその作用力の方向に伸びることとなる。一方、その作用力が付与されなくなくと、スリット２の開口が閉じられてサイドフ

ラップ２０はその原形を回復するように縮む。
つまり、サイドフラップ２０自体は伸縮しないものの、スリット２の変形に応じて、サイドフラップ２０はその延出方向であって、スリット２の長手方向と交差する方向への伸縮が可能になっている。
なお、スリット２の長さＬを長く形成するほど、スリット２の開口が大きく開くので、サイドフラップ２０はより長く伸びることが可能になる。また、スリット列の配列間の長さＢであるピッチ長Ｂを短くする程、単位長さあたりのスリット２の開口量が増えるので、サイドフラップ２０はより長く伸びることが可能になる。
【００４２】
このような紙おむつ１ｂであれば、紙おむつ１ｂにおけるサイドフラップ２０に複数のスリット２・・・を形成することによって、本来は伸縮性を有さないサイドフラップ２０が、スリット２の長手方向と交差する方向であって、サイドフラップ２０の延出方向に伸縮することができるようになっているので、紙おむつ１ｂの着用性や装着感が向上する。
具体的には、図１３に示すような状態である紙おむつ１ｂを着用するユーザが寝起きするなど姿勢を変える際に腹に力を入れたことや、ユーザが呼吸することなどに伴い、人体の腹が一時的に膨らむことがある。その際、スリット２が開き、紙おむつ１ｂにおけるサイドフラップ２０が、スリット２の長手方向と交差する方向に伸びることによって、ユーザの腹や腰などの胴回りにかかる腹圧を低減することができるので、紙おむつ１ｂの着用性や装着感が向上する。また、膨らんだ腹が元に戻ると、スリット２が閉じ、サイドフラップ２０はその原形を回復するように縮むので、紙おむつ１ｂは元のように胴回りにフィットする。
つまり、紙おむつ１ｂのサイドフラップ２０は、ユーザの腹が膨らめばそれに応じて伸び、ユーザの膨らんだ腹が元に戻るとそれに応じて縮むようになっている。
このように、紙おむつ１ｂは、装着感に優れ、より好適に着用することができる吸収性物品である。
【００４３】
また、図１５、図１６に示す、紙おむつ１ｃのように、紙おむつ１ｃのサイドフラップ２０に、サイドフラップ２０の延出方向と交差する方向に沿う複数条の筋部である複数の溝を形成することによって、そのサイドフラップ２０の延出方向に凹凸が連なる波状加工部４を形成してもよい。
波状加工部４は、例えば、サイドフラップ２０にギア加工などのエンボス加工を施して形成した波形状部分を熱セットすることにより、サイドフラップ２０に波形状が耐久性よく付与された筋部である。
そして、このサイドフラップ２０に、そのサイドフラップ２０の延出方向（紙おむつ１ｃの幅方向）に引き伸ばされる作用力が付与されると、波状加工部４の凹凸が広げられることによって、サイドフラップ２０がその作用力の方向に伸びることとなる。一方、その作用力が付与されなくなくと、波状加工部４の凹凸が復元されてサイドフラップ２０はその原形を回復するように縮む。
つまり、サイドフラップ２０自体は伸縮しないものの、波状加工部４の変形に応じて、サイドフラップ２０はその延出方向への伸縮が可能になっている。
【００４４】
このような、波状加工部４を有するサイドフラップ２０を備える紙おむつ１ｃであっても、人体の腹が一時的に膨らむ際に、紙おむつ１ｃにおけるサイドフラップ２０がその延出方向に伸びることによって、ユーザの腹や腰などの胴回りにかかる腹圧を低減することができるので、紙おむつ１ｃの着用性や装着感が向上する。また、膨らんだ腹が元に戻ると、波状加工部４の凹凸が復元され、サイドフラップ２０はその原形を回復するように縮むので、紙おむつ１ｃは元のように胴回りにフィットする。
このように、紙おむつ１ｃも、装着感に優れ、より好適に着用することができる吸収性物品である。
【００４５】

また、図１７、図１８に示す、紙おむつ１ｄのように、紙おむつ１ｄの着用時に人体の腰回り側に位置する第１フラップ部としての第１サイドフラップ２５ａ、２５ｂと、人体の脚回り側に位置する第２フラップ部としての第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂを備える紙おむつ１ｄであって、それら第１サイドフラップ２５ａ、２５ｂと、第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂに複数のスリット２・・・を形成してもよい。

更に、背側部１６におけるサイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）と吸収体１２の間と、腹側部１５における当該腹側部１５の両側端部と被着部３０との間に、サイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）の延出方向と交差する方向に沿う複数条の筋部であるスリット２ａ・・・と、スリット２ｂ・・・を形成してもよい。

【００４６】

スリット２ａ・・・は、背側部１６の背側延出部１６２における腰回り側と、腹側部１５の腹側延出部１５２における腰回り側に形成されている。

スリット２ｂ・・・は、背側部１６の背側延出部１６２における脚回り側と、腹側部１５の腹側延出部１５２における脚回り側に沿って形成されている。

特に、スリット２ａを、スリット２のピッチ長Ｂより短く形成することによって、サイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）より、背側部１６と腹側部１５における腰回り近傍の方が伸縮するようになっている。

また、スリット２ｂを、スリット２ａの長さＬより短く形成することによって、背側部１６と腹側部１５における腰回り近傍より、背側部１６と腹側部１５における脚回り近傍の方が伸縮程度が小さくなっている。

【００４７】

そして、紙おむつ１ｄを着用する場合、第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂを脚回り側から腰回り側へ引き上げるようにして、ファスニングテープ２３を被着部３０に係止するとともに、第１サイドフラップ２５ａ、２５ｂをその第２サイドフラップ２６ａ、２６ｂに重ねるように止着することによって、紙おむつ１ｄをより好適に人体にフィットさせて装着することができる。

なお、第１サイドフラップ２５ａと第２サイドフラップ２６ａ、及び、第１サイドフラップ２５ｂと第２サイドフラップ２６ｂ、とは、元々それぞれ上下一体のサイドフラップである。そして、第１サイドフラップ２５ａと第２サイドフラップ２６ａの間と、第１サイドフラップ２５ｂと第２サイドフラップ２６ｂの間に、それぞれミシン目が形成されているので、そのミシン目に沿ってサイドフラップを切り裂くことによって、上下別体の第１サイドフラップと第２サイドフラップとに分割することが可能になっている。

【００４８】

このように、背側部１６や腹側部１５にスリット２ａやスリット２ｂが形成されている紙おむつ１ｄであっても、人体の腹が一時的に膨らむ際に、紙おむつ１ｄにおけるサイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）や、背側部１６や腹側部１５が伸びることによって、ユーザの腹や腰などの胴回りや脚回りにかかる腹圧などを低減することができるので、紙おむつ１ｄの着用性や装着感が向上する。また、膨らんだ腹が元に戻ると、サイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）や背側部１６や腹側部１５はその原形を回復するように縮むので、紙おむつ１ｄは元のように胴回りにフィットする。

このように、紙おむつ１ｄも、装着感に優れ、より好適に着用することができる吸収性物品である。

【００４９】

特に、紙おむつ１ｄの着用時において、人体の腰骨の近傍で、腹側部１５にサイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）と背側部１６を重ねた際に、サイドフラップ（２５ａ、２５ｂ、２６ａ、２６ｂ）と背側部１６のスリット（２、２ａ、２ｂ）が、腹側部１５のスリット（２ａ、２ｂ）と重なることとなるので、紙おむつ１ｄの人体側と外部側との通気性が向上する。

つまり、紙おむつ１ｄの着用時に重なった腹側部１５の腹側延出部１５２と背側部１６の背側延出部１６２には、それぞれ開口部であるスリット（２ａ、２ｂ）が形成されてい

るので、紙おむつ１ｄの人体側と外部側との通気性を向上させて、紙おむつ１ｄ内のムレを低減することができる。

【００５０】

なお、以上の実施の形態においては、サイドフラップ２０とファスニングテープ２３の両方にエンボス加工を施す場合について説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、サイドフラップ２０とファスニングテープ２３のいずれか一方にエンボス加工を施すようにしてもよい。

また、エンボス加工を施さなくても、ファスニングテープ２３の色がサイドフラップ２０を透けるのであれば、エンボス加工は不要となる。

【００５１】

また、以上の実施の形態においては、ファスニングテープ２３が青色の場合を例に挙げて説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、ファスニングテープ２３の色は任意の色であってもよい。

また、サイドフラップ２０が白色であることに限らないことは勿論である。

【００５２】

また、その他、具体的な細部構造等についても適宜に変更可能であることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【００５３】

【図１】本発明に係る紙おむつを示す展開斜視図である。

【図２】本発明に係る紙おむつの装着時における状態を示す斜視図である。

【図３】本発明に係る紙おむつを示す展開平面図である。

【図４】図３のIV－IV線におけるサイドフラップの断面図である。

【図５】ファスニングテープの突起を示す拡大平面図（ａ）と、図５（ａ）のｂ－ｂ線における断面図（ｂ）である。

【図６】被着部の表面を拡大して示す説明図である。

【図７】ファスニングテープの突起が被着部に係止される状態を示す説明図である。

【図８】図３のVIII－VIII線における断面図である。

【図９】紙おむつの背側部の一部を断面視した拡大説明図である。

【図１０】紙おむつにインナーパッドを装着した場合を示す断面図である。

【図１１】本発明における紙おむつの変形例を示す斜視図である。

【図１２】本発明における紙おむつの変形例を示す展開斜視図である。

【図１３】本発明における紙おむつの変形例を示す斜視図である。

【図１４】サイドフラップにおけるスリットの説明図であり、閉じたスリット（ａ）と、開いたスリット（ｂ）を示している。

【図１５】本発明における紙おむつの変形例を示す展開斜視図である。

【図１６】本発明における紙おむつの変形例を示す斜視図である。

【図１７】本発明における紙おむつの変形例を示す展開斜視図である。

【図１８】本発明における紙おむつの変形例を示す斜視図である。

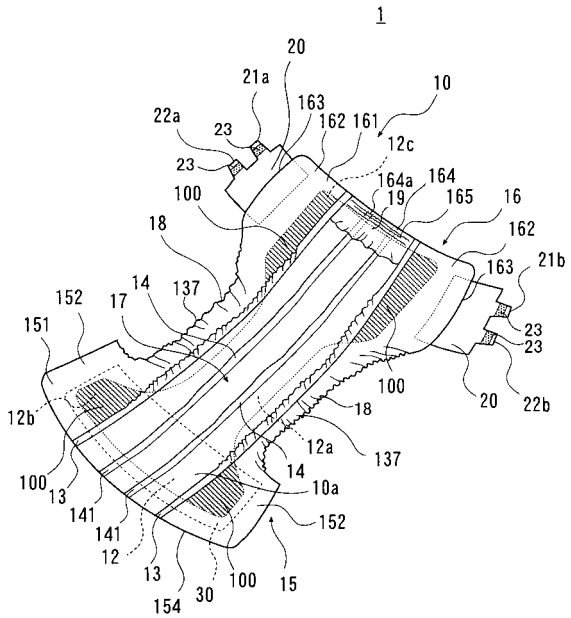
【符号の説明】

【００５４】

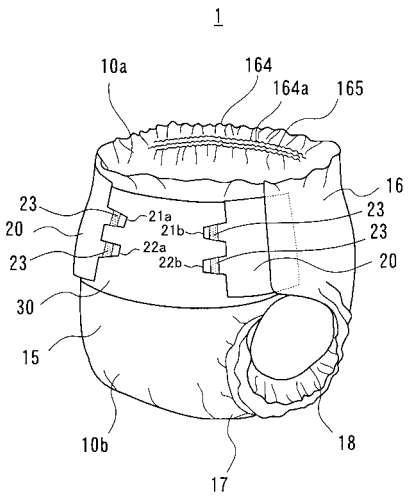
１、１ａ、１ｂ、１ｃ、１ｄ　紙おむつ（吸収性物品）
２、２ａ、２ｂ　スリット
４　波状加工部
５　突起
１０　紙おむつ本体
１０ａ　表面シート
１０ｂ　裏面シート
１２　吸収体
１３　ギャザーシート

１５　腹側部
１６　背側部
１７　股下部
２０　サイドフラップ（止着部）
２５ａ、２５ｂ　第１サイドフラップ（止着部）
２６ａ、２６ｂ　第２サイドフラップ（止着部）
２０ａ　凹部（エンボス）
２３　ファスニングテープ（ファスニング部材）
２３ａ　凹部（エンボス）
２４　接着剤
２５ａ、２５ｂ　第１サイドフラップ（止着部）
２６ａ、２６ｂ　第２サイドフラップ（止着部）
３０　被着部

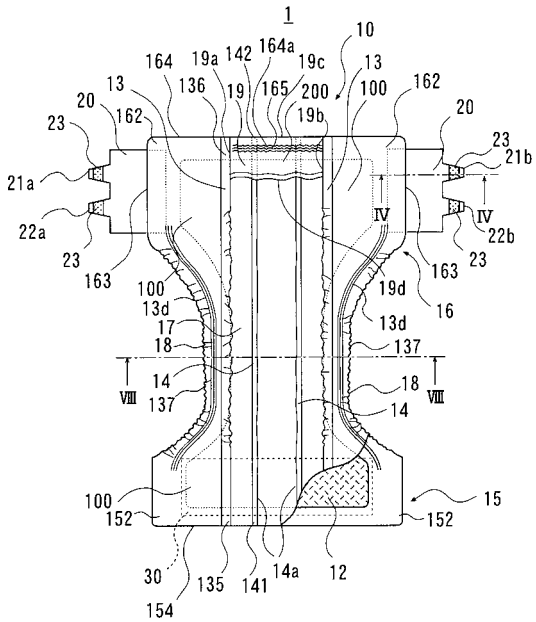
【図１】



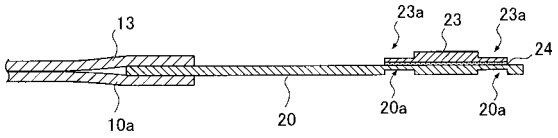
【図２】



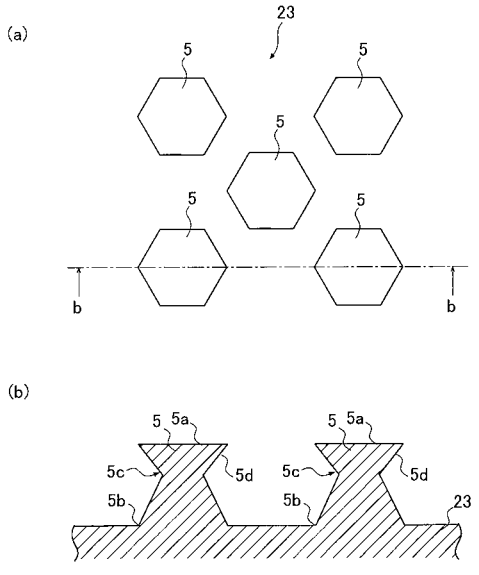
【図３】


1
10
164
19a
142
164a
19c
13
20
13
136
19
165
200
100
162
20
23
162
19b
23
21b
21a
IV
IV
22a
22b
23
163
23
163
100
19d
16
13d
13d
17
18
137
VIII
14
137
18
VIII
14
100
15
152
152
30
135
141
14a
12
154

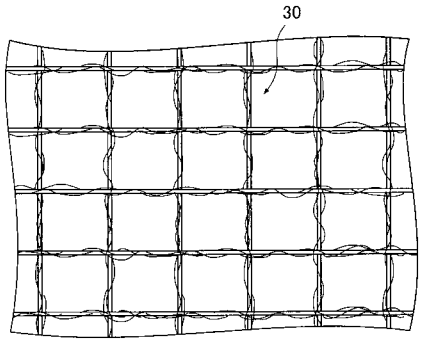
【図４】


13
23a
23
23a
24
10a
20
20a
20a

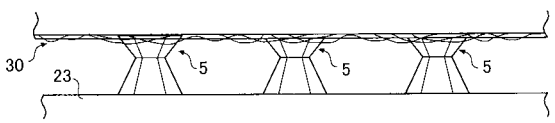
【図５】


(a)
23
5
5
5
5
5
b
b
(b)
5
5a
5
5a
5c
5d
5c
5d
5b
5b
23

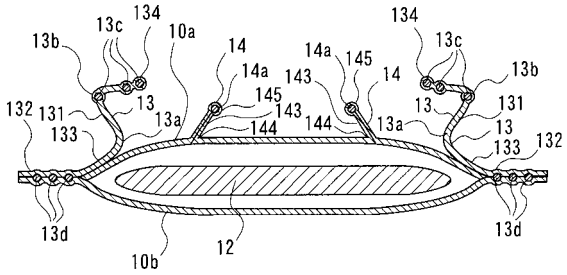
【図６】


30

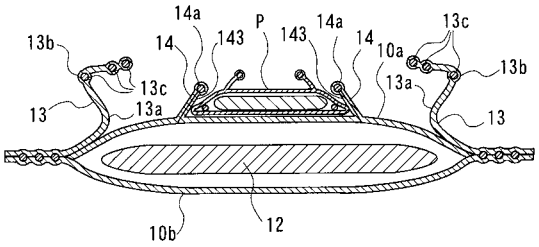
【図７】


30
5
5
5
23

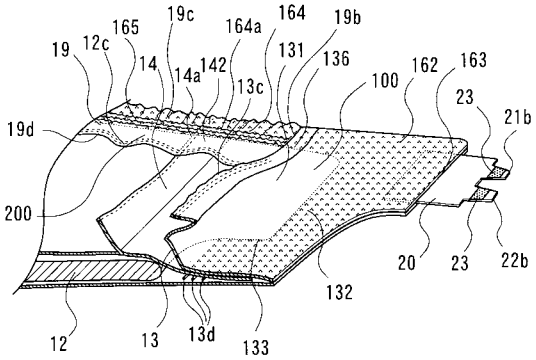
【図８】



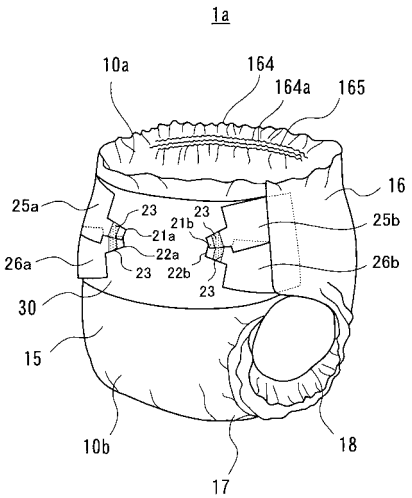
【図１０】



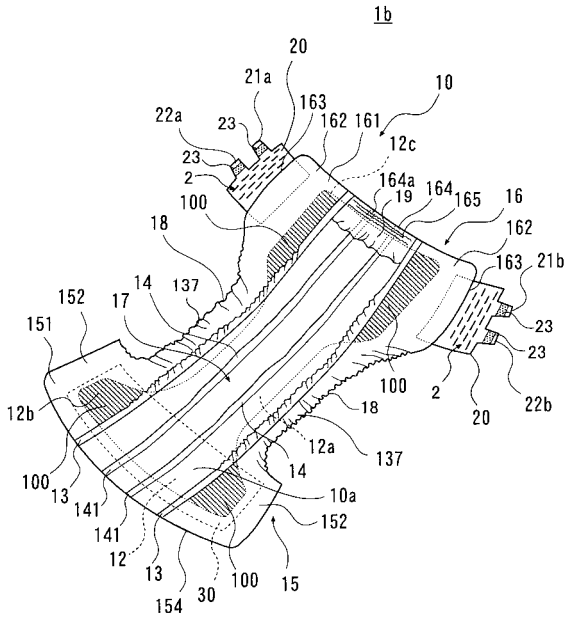
【図９】



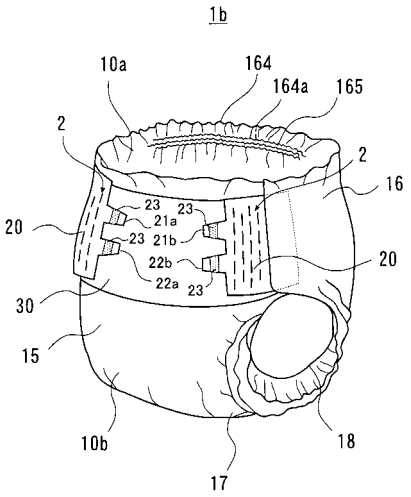
【図１１】



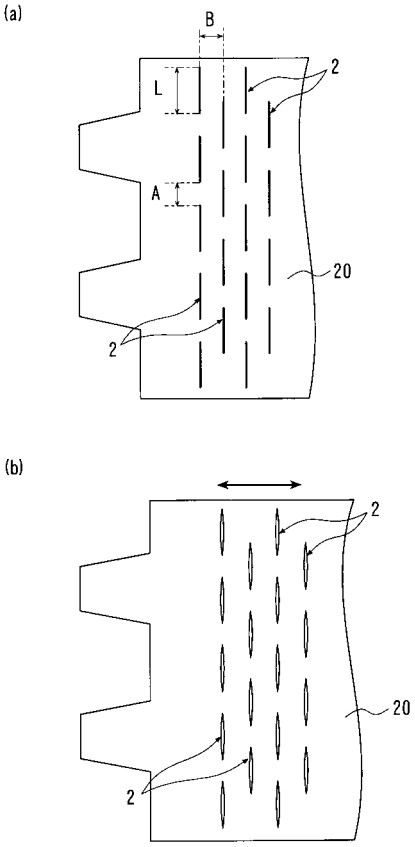
【図１２】



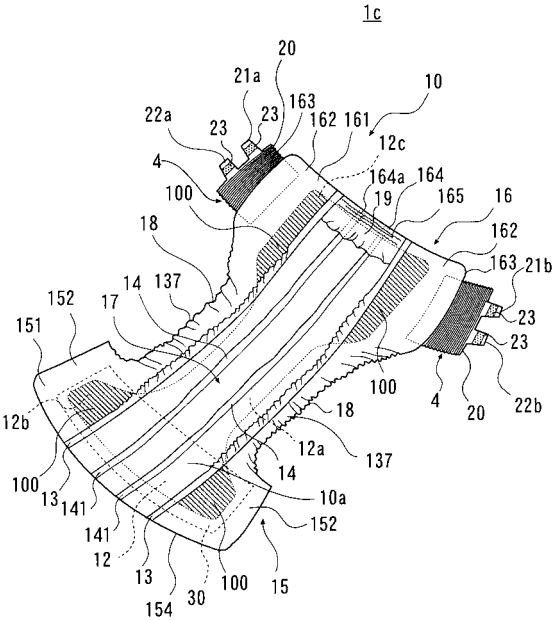
【図１３】



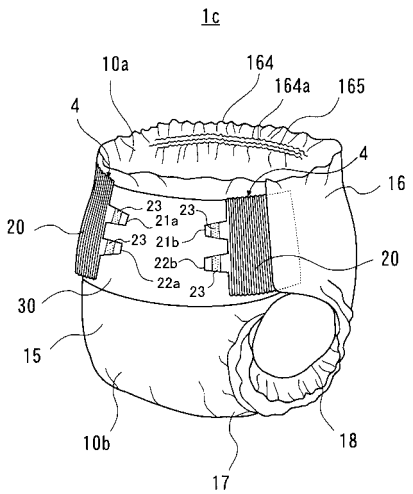
【図１４】



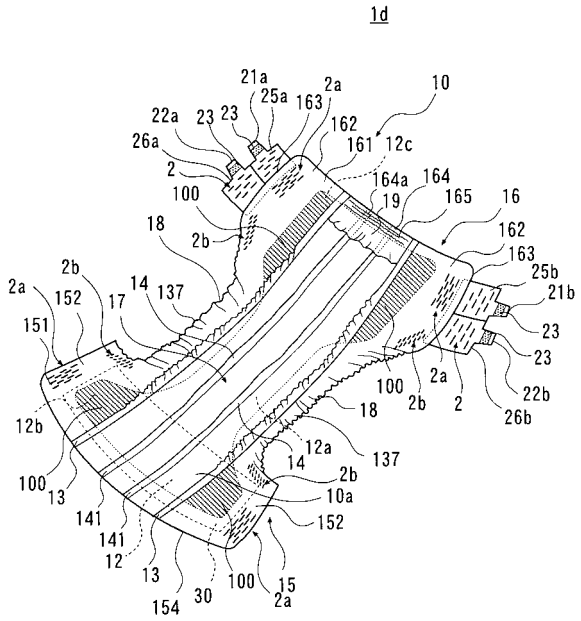
【図１５】



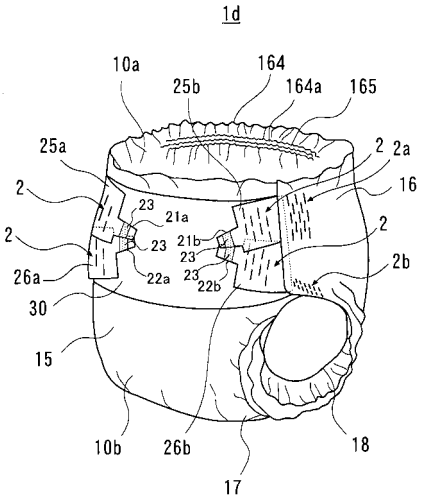
【図１６】



【図１７】


1d
10
21a
25a
163
2a
22a
23
23
162
26a
161
12c
2
164a
164
100
19
165
16
18
2b
162
163
2b
25b
2a
14
137
21b
152
17
23
151
23
2a
100
22b
2b
2
26b
12b
18
12a
137
14
2b
100
10a
13
141
152
141
12
13
100
15
154
30
2a

【図１８】


1d
10a
164
25b
164a
165
25a
2
2a
2
16
23
21a
2
2
21b
23
23
26a
22a
23
22b
2b
30
15
10b
26b
18
17

フロントページの続き

Ｆターム(参考) 3B200 AA01 AA12 BA12 BA15 BB20 CA02 CB02 DA02 DE01 DE11
DE14 DE16 DE18